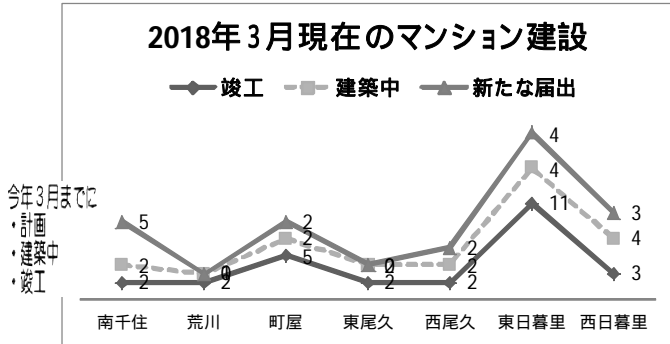




# まちづくりを考える

# 荒川区内の地域別マンションの建設状況は人口の増加と社会資本整備の計画など

総務省の発表では、首都圏など都市部の人口が増加し、地方の人口は減少し続けています。歴代自民党政権のもとで、5次にわたり策定されてきた全国総合開発計画は「国土の均衡ある発展」を標榜していましたが、実際には大企業本位の開発行政が主軸となり、東京を中心にした一極集中を生み出しました。その結果、地方の疲弊、山間部の荒廃の一方、東京への人と富の集中が加速しています。もっとバランスのとれた暮らし・国土のあり方が問われています。バブル期からみると区内のマンション建設は、少し落ち着いてきたものの、まだまだ続いて



## お知らせ 都営住宅の募集がはじまります

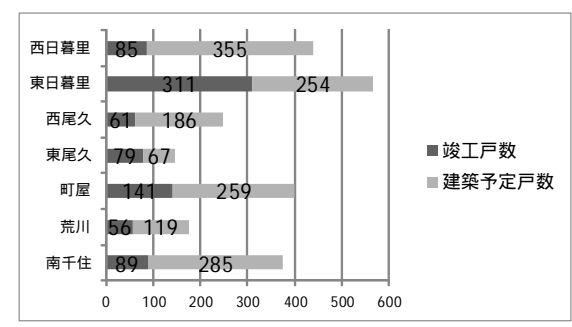
申込書配布期間  
**5月7日(月)から15日(火)**  
 配布場所は、区役所・施設管理課・1階総合案内、各区民事務所、ふれあい館、ムーブ町屋、日暮里サニーホール  
 申し込み  
**住宅供給公社に郵送で 5月17日(木)必着**  
 募集戸数

**世帯向け** (一般募集住宅) 2,350戸  
 区内募集 町屋8丁目1戸、東日暮里1丁目3戸、町屋6丁目2戸(以上単身も可) 西尾久8丁目1戸、町屋5丁目1戸  
 改良住宅 町屋6丁目5戸、荒川8丁目11戸(以上単身可)、荒川7丁目仲道2戸、町屋6丁目1戸 再開発住宅 南千住8丁目1戸、南千住8丁目第5 2戸  
 【改良、再開発は収入基準に違いがあります】

**若年夫婦・子育て世帯向け** (定期使用) 750戸  
 区内募集 南千住8丁目1戸、南千住4丁目1戸

**病死発見が遅れた住宅など** 300戸  
 西尾久4丁目1戸(単身可)、南千住4丁目1戸  
 申込書の書き込みなどお手伝いします。ご連絡ください。

います。今年3月までに完成した地域別のマンション件数は、町屋地域など2〜5棟ですが、東日暮里は11棟になっています。建築中も各地域2〜4棟あり、今後の計画も荒川、東尾久地域には大きなものはありませんが、その他の地域では、建設が続きます。建設戸数でも東・西日暮里地域で約600戸をはじめ区内合計で、ワンルーム含めて1,500戸以上となっています。荒川区は、結果として、これまで住宅を中心とした大規模な駅前再開発をまちづくりの軸として推進した経緯があります。人口増加は、さまざまな公共



施設整備も必要になるだけに将来も見据えた、都市計画の再検証、再検討が必要です。

## 今週のデータ 治療手遅れ 死亡63件 無保険など困窮 影落とす

全日本民主医療機関連合(全日本民医連)は、経済的理由で治療が遅れ死亡した事例が2017年に63件あったと18日公表した。死亡事例の51%が無職です。非正規労働者と自営業を含めると71%にのぼりました。

受診時に無保険や窓口で医療費10割負担の資格証明書などだったのは31例で、経済的困窮によるものが半数以上でした。一方で、正規の保険証を持ちながら医療費の窓口負担が重く、治療中断・未受診の事例もありま

無保険・資格証明書・短期証になった経緯

経緯	割合
滞納等で無保険	3%
家族・本人に障害あり	19%
事業に失敗、自営業閉鎖	24%
病気、ケガ、事故で失業	13%
非正規、勤務先で保険未加入	6%
生活保護打ち切り	13%
退職後手続きせず	16%
その他	6%

経済格差が命の格差にならない対策が必要です。(横山)

## 鉄道事業者と行政が「バリアフリー」に本気の対応を

4月12日、東京視力障害者協会(東視協:事務所は西尾久)のみなさん、日本共産党山添参議院議員と共産党区議団も一緒に日暮里駅の調査が行われました。ホームドアも山手線だけではありません。東北線にはありま

せん。ホームドアは、視力障害者だけでなく、誰にとっても必要なものです。ホームドアだけでなく障害者にとって利用しやすい箇所がたくさんあったようです。ホームドア設置スピードを上げ、バリアフリーを促進するために、鉄道事業者は、駅ビル開発よりも先にホームドア設置にお金を振り向けるべきだし、国や東京都の予算ももっと増額すべきです。最近のJRの主要駅は、ホームの安全よりの、エキナカ店舗整備

カド舗整備